大鹿村中央構造線博物館たより



2020年3月発行

TEL:(0265)39-2205 staff69@mtl-muse.com

塩の里→道の駅徒歩観察コース



図1 コースマップ(所要時間2時間)

昨年11月に開催された秋葉古道ウォーキング(秋葉古道歩き隊主催)のコースは、中央構造線の断層鞍部(断層が尾根を横切るところにできる凹んだ地形)をいくつも通り抜けるルートになっており、地形観察にも最適なので、簡単なルートマップを作成してみました。

自家用車は、道の駅の駐車場に停めておいて、バスで塩の里に向かいます。毎朝10時台には伊那バスの便がありますし、曜日によっては村内の無料循環バスも利用できます。塩の里直売所は、現在改装中で仮店舗営業中ですが、春にはリニュアールオープンするそうです(写真1. 地点①)。

塩川を渡ると、車道をショートカットするように、歩道が整備されていますので、秋葉古道の標識に従って進んでいきます。何度か車道と合流したり分かれたりを繰り返し、登っていくと、夜泣き松に到着します(写真2, 地点②)。夜泣き松の下方に、初代学校発祥の地の碑があります(写真3)。この石碑は、とてもきれいな緑色片岩でできていますが、真ん中の文字を刻んでいる石は花崗岩です。緑色片岩は中央構造線の外帯側(東側)、花崗岩は内帯側(西側)に分布する岩石で、何とも対照的です。石碑の裏を読んでみると、

ここに江戸末期から明治初期に寺子屋式の学校が建立されていたそうで、当時は、主要道沿い にあった学校だったのでしょう。



写真1 改装中の塩の里(地点①)



写真2 夜泣き松と解説板(地点③)



写真3 初代学校発祥の地の碑(地点②)

夜泣き松から西方向に延びる尾根沿いを車道に降りたところに、河合の断層戦部の解説板があります(写真4, 地点③)。ちょうど車道の真上あたりが、中央構造線が通っているところだそうです。また、解説板の前から南の方に目をやると、居森山の断層鞍部を望むことができます(写真5)。

ひきつづき、歩いて いくと、斜面が階段状 になっている場所があ ります。(写真6.地点 ④)。これは、斜面の 一部がゆっくりと移動 する「地すべり」に よってできる地形で、 移動を止めるために、 地下水を抜くための井



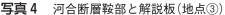




写真 5 河合断層鞍部(地点③)から見た居森山断層鞍部(地点⑤)

戸が設置されています。中央構造線のすぐ外帯側(東側)は、地すべりを起こしやすい結晶片 岩が分布しているため、このコース沿いでは「地すべり防止区域」の看板がいくつも見つかり ます。

さらに進んだところ で、後ろを振り向くと、 先ほど通ってきた河合 断層鞍部が見えます (写真7)。居森山の 断層鞍部(地点⑤)ま で来ると、前方に中尾の 断層鞍部(写真8)が 見えます。尾根がぼこぼ こして見えますが、そ





写真6 階段状の地すべり地形と水抜き井戸(地点⑤) 写真7 南側から見た河合断層鞍部(地点③)

こにも小規模な断層があるのかもしれません。さらに歩いていくと、小渋峡の谷間から、中央アル プスの冠雪した山が見えます(写真9. 地点⑥)。

中尾峠のところで道 が分岐していますので、 右に降りていきます。 すぐ右手にある階段を 上ると、堀田城跡があ ります (写真10, 地点 ⑦)。堀田城は、断層 鞍部の地形を利用して 築かれています。中尾



写真8 中尾断層鞍部



写真 9 小渋峡の谷間から中央アルプスの山が見える

茶屋堂の脇からは、中央構造線の断層谷が良く見えます(写真11, 地点®)。後は、ひたすらつづ ら折りの道を下ると道の駅(地点⑨)に到着します。(宮崎)



写真10 堀田城跡



写真11 中尾茶屋堂から見た中央構造線断層谷と大西山の崩壊地